

## 2017年度「研修会報告」No.2 (7月～10月)

### ◆「研修会」計画

回	開催日	講師	テーマ	参加者
1	5月17日(水)	村松通久さん	海外事情(タイ実践報告)+ランチ会	15名
2	6月24日(土)	井上敬子先生	間違いやすい助詞の使い分け	14名
3	10月14日(土)	長阪たか子さん	オノマトペ(擬音語/擬態語)について	13名

### ◆ 研修会報告 ◆

#### (1) 第3回研修会：10月14日(土)

##### ◆ 第1部：長阪たか子さん「オノマトペ」について (13:30～15:00)



長阪たかさんは常々、「各種の集まりに顔を出し、日本語教育の新しい流れを学んでほしい」と発信されています。その一つは、毎年8月開催の「文化庁日本語教育大会」です。今年は「日本語教育の人材として何が求められるか」をメインテーマとして話し合われたそうです。

今回の研修会では、今年2月、国立国語研究所で行われた第10回NINJAフォーラム「オノマトペの魅力と不思議」への参加体験をもとに、学びの機会を提供していただきました。

##### ◆ 第2部：研修企画メンバー「なんでも相談会」 (15:00～15:30)

支援での疑問点や悩みを話し合ううちに、話題はいつしかオノマトペにつながっていきました。

## ★参加者の声より

① オノマトペをどのように教えれば良いのかと悩んでいましたが、今回の研修で先が見えてきました。場面シラバスを設定しそこから教えて行けば解りやすいと実際の授業で使ってみました。沢山質問がありました。



② 新しいオノマトペについても勉強しなくてはならないと感じました。たとえば「さくさく」等も頻繁に使われています。

③ 畳語とオノマトペは判別が解りづらいのですが、研修会で、重ね言葉の一つだけでも意味が解るのが畳語である事が理解できた。「しみじみ」は、元は「しみる」で、連濁になりあとの言葉が濁音になる。「きらきら」「しずしず」「ごろごろ」も同じ分類に入る、等。

④ 平仮名と片仮名表記の違いは擬態語と擬音語で基本的に表記される事も解った。擬態語は平仮名、擬音語はカタカナ表記が基本形であることも理解できました。

⑤ 学習者に何気に「どんどん覚えましょう」と言っていたのですが、果たして通じていたかどうか？

⑥ 日本人はオノマトペをつい使ってしまうですが、学習者には難しいんですね。

⑦ 「料理があっさりしている/こってりしている」の違いを話題にした時、理解は示してくれましたが、語感を共有するところまではいきませんでした。

⑧ 「そろそろ始めましょう」と言ったら、「そろそろは何ですか」と聞かれ、説明に困ったことがある。

⑨ 日本生まれのブラジル人男児（小学1年生）の支援で絵本を一緒に読んだ時、平仮名はすらすら読めるのに、途中で、絵本の内容があまり理解されていないのではないかと疑問に思い、いくつか質問したら、やはり分かっていなかったことがあった。絵本にはオノマトペも多く使われている。日本の子供は生活の中で自然に理解できるようになるが、彼の両親はポルトガル語話者なので、家庭で聞いたり使ったりする機会はなく、実感として理解できなかったのだろう。

(写真：村松奈、報告：稲谷)